



感謝の心をもとに かかわりの中で自己を高める たくましい児童の育成

# 学校だより

白山市立蝶屋小学校  
学校長 荒木 直子  
令和4年9月1日 前期学校評価号

1. 令和4年度 前期 学校評価結果とその分析と今後の取組

※回答は、「A：あてはまる」「B：ややあてはまる」「C：ややあてはまらない」「D：あてはまらない」から選択。左表中の数値は、そのうちの「A：あてはまる」の割合です。（昨年度は、「A+B」の肯定的評価の数値でした。）

|         | 重点項目        | 児童アンケート                                 | A評価<br>(%) | 保護者アンケート                                         | A評価<br>(%) | 教職員アンケート                                                | A評価<br>(%) | 分 析 と 今 後 の 取 組                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------|-------------|-----------------------------------------|------------|--------------------------------------------------|------------|---------------------------------------------------------|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 共通      | 学校生活        | 学校は楽しい                                  | 60.9       | お子さんは、「学校は楽しい」と思っている                             | 55.4       | 子どもたちは、学校で楽しく過ごしている                                     | 50         | 一年間を「出会い」「協力」「チャレンジ」「みのり」「はばたき」の5ステージに設定することで、学習をはじめ、学校行事や各種取組において、子どもたちに「つきたい力」が、より明確になりました。その結果、児童の学校生活の充実につながったと考えています。さらに児童が楽しく学校生活を過ごせるように、授業改善や行事企画に取り組み、学校全体でさらに楽しい学校生活となるよう展開していきます。                                                                                                                                                                                               |
| 確かな力の育成 | わかる授業       | 授業は、わかりやすい                              | 57.8       | お子さんは、「勉強は分かりやすい」思っている                           | 36.3       | ねらいを（育みたい資質、能力）を明確にした授業を行っている                           | 38.9       | 児童の達成度よりも教職員の達成度の方が低いという結果となった。この結果から、さらに「児童」にとって「わかる授業」となるための教材研究や単元題材の構築が必要と捉えています。「わかる授業」のために、「ゴールを明確にした授業づくり」を目指し、単元題材の見通しをもった授業計画に取り組んでいきます。また、適応問題や小テストなどをこまめに見取り、実態を把握していきます。                                                                                                                                                                                                       |
|         | 学び合い（説明する力） | 相手の話を分かってあげようと聞いたり、相手に分かってもらおうとして話したりする | 60.5       |                                                  |            | 相手の話を分かろうとして聞く、相手に分かってもらおうとして話す、など相手意識をもって聞く、話すの指導をしている | 68.4       | 「話す力」をつけていく上で、「聞く力」についてもスパイラルに育てていくことが必要不可欠であることが学校研究から見えてきました。分かってあげようと相手の話を「聞く力」を育む取組については、子どもたちの姿の中に一定の成果を感じています。相手にわかってもらおうとして「話す力」がまだ十分でないと思われます。話す力アップのための取組として、「分かってもらいたいと思って話したくなる」交流の場面の選定や相手の方に体を向けて話すといった所作や、分からないところを問い返す力について育てていきます。                                                                                                                                         |
|         | 家庭学習        | 家庭学習は（1年：20分 2～3年：学年×10分）の時間、取り組めている    | 48.2       | お子さんに家庭学習の時間（学年×10分）をとっている                       | 31.1       | 児童が家で学年のめあての学習時間（学年×10分）の勉強に取り組めるように指導している              | 41.7       | 家庭学習強化週間中は、子どもたちや保護者の方々のご協力もあり、成果としてとても温かな取組になっていると感じています。しかし、主に高学年で日頃の家庭学習時間が十分に確保することが難しいように感じられます。学年でめやすとなっている家庭学習時間の確保が難しい児童には、本人や保護者の方と相談の上、「自分の目標時間」を設定することから始め、達成感を味わわせながら取り組ませていきたいと考えています。                                                                                                                                                                                        |
| 豊かな育成   | いじめなし       | いじめられたり無視されたりすることなく、安心して過ごしている          | 69.9       | お子さんは、いじめられたり、無視されたりすることなく、安心して過ごしている            | 64.5       | 子どもたちは、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている                    | 20         | 毎月の「こころのアンケート」、昨年度より取り組んでいる「無記名アンケート」、そして随時行われる「いじめ問題対策チーム」の開催など、いじめの早期発見、組織的な早期対応のシステムが効果的に運用されています。その中で、子どもたちからの書き込みや相談は一定数みられますが、丁寧に対応しています。今後も自己決定の場・自己存在感・共感的人間関係を大切にした授業づくり、温かい学級づくりを実践しながら、一人ひとりが安心して過ごせる学校づくりを目指していきます。                                                                                                                                                            |
|         | 思いやり        | 友達に対して、やさしく話したり、行動したりしている               | 66.4       | お子さんは、友達に対して思いやりの心を持って行動している                     | 53         | 相手意識をもった思いやりのある言動ができるように指導している                          | 63.2       | コロナ禍で実施が難しかった縦割り活動（異学年交流活動）ですが、今年度は感染状況を見ながら少しずつ動き始めました。また、学校全体のキーワードである「相手意識」という言葉をもとに、子どもたち一人ひとりが相手を意識して生活するようになってきています。学習や各種活動の中に、お互いの良さに気づかせる場面を設定し価値づけたり、励まし合いながら進めることで思いやりの意識が育っている。今後も引き続き、温かな学級経営を基盤とし、道徳教育の推進、たてわり活動の実施など今行っていることをきちんと行っていきます。                                                                                                                                    |
|         | あいさつ        | 友だちや先生、見守り隊や地域の方に気持ちのよいあいさつをしている        | 73.8       | お子さんは、日常的に「おはよう」「おやすみ」「いってきます」「ただいま」などのあいさつをしている | 73.7       | 友達、先生、来校者、見守り隊、地域の方に、気持ちのよい挨拶ができるように、指導している             | 68.4       | 企画運営委員会を中心とした児童主体のあいさつ運動に取り組んできました。その中で、具体的なお手本の姿（目を見てあいさつなど）を示すことで、子どもたちのあいさつがどんどん成長していったように思います。2学期、3学期も短期集中型のあいさつ運動を実施し、「子ども」を中心に据え、全校で力を合わせ、さらなる気持ちの良いあいさつを目指していきます。                                                                                                                                                                                                                   |
| 健やかな成   | 体力向上        | 体育の時間はめあてをもって、楽しくがんばれている                | 78         |                                                  |            | 体育の時間等に、めあてを持ってねばり強く取り組めるように工夫している                      | 57.1       | 子どもたちのほとんどは、めあてをもって楽しく頑張ることができています。2学期から取り組む運動会の練習や本番の姿もとても楽しみです。特別活動の「チャレンジステージ」の合い言葉は『全力行動！越えよう！昨日の自分！』です。昨日より今日、今日より明日と、自分なりのめあてをもって、より運動に親しんでくれることを期待しています。しかしながら、体育に対して苦手意識があるお子さんがいるのも事実です。その児童に合っためあてを設定したり、楽しみやすいルールを考えたりすることで、体力向上へとつながっていきたいと考えています。                                                                                                                             |
|         | 生活習慣（食への感謝） | 感謝して給食を残さず食べるようにしている                    | 68.4       | お子さんは、「早寝・早起き・朝ごはん」を意識して生活している                   | 45.4       | 感謝して給食を残さず食べるよう指導している                                   | 61.1       | ご家庭では、食育にどのように取り組んでおられるでしょうか。残食に関しては、自分に合った食べられる量を考えることで、食べることができた児童が多く見られました。残さず食べることも大切ですが、残してしまったとしても「感謝して食べる」という心を大切にしたいですね。まずは、「いただきます」「ごちそうさま」をはっきりと言う事と、食器をきれいに片づけることで、感謝の気持ちの素地を育てていきたいと思います。ご家庭でもご協力お願いいたします。                                                                                                                                                                     |
|         | 自己有用感       | みんなを笑顔にするためにどうしたらよいかを考えて、係や実行委員の仕事をしている | 66         | お子さんと話す時間をとっている                                  | 56.2       | みんなを笑顔にするために、自分の役割を果たせるよう指導している。（係・実行委員・委員会など）          | 44.4       | 高学年を中心とした各委員会活動をはじめとする「児童発信の取組」が増えてきました。その活動において友だちとの関わりを通して、「自分のよさに気づくことができる場面」が増えたように感じています。今後も委員会や自分のクラスの係などの仕事を率先してできた子どもたちを褒め、認めることで、自己有用感の高まりを目指していきたいと思います。結果も大切ですが、過程も大事です。おうちでもたくさん褒めてあげてくださいね。                                                                                                                                                                                   |
| 家庭域と連携  | 情報発信        |                                         |            | 学校は、児童の活動の様子を日常的な連絡や便り等で伝えている                    | 85.3       | 学校活動や児童の様子を、日常的な連絡や便り等で伝えている                            | 16.7       | 児童の活動の様子（ケガのお知らせを含む）を担当や養護教諭から電話を通じて、また新型コロナウイルスの感染状況といった緊急情報についても、配信メールを通じて丁寧に取り組んで参りました。その点を保護者の方にも評価していただけて大変うれしく感じております。その反面、未だに新型コロナウイルス感染症の感染状況は拡大傾向が続いています。引き続き「一斉メール」をこまめにチェックいただくことを改めてお願いするとともに、感染症感染拡大による急な学級および学年閉鎖をお知らせする「一斉配信メール」については、改善が必要であると考えています。保護者の方がメールを読み、児童が帰宅してもよい状況にあるか等、学校と保護者が双方に確認し合うことができるシステムを構築しなければなりません。近日中に、改善案についてお知らせいたしますので、併せてご協力のほど、よろしくお願いいたします。 |

2. 学校関係者評価委員会での主なご意見

- ・ 従来の学校評価では、評価基準が「A評価+B評価」であったのに、今年度から「A評価」のみで、達成度をはかっているところが素晴らしい。A評価のみの数値でより厳しく分析していることを、まず評価したい。
- ・ 家庭学習については、毎年同じような結果が続いているような気がする。  
————— 努力週間での達成率は大きく、頑張る子どもたちの気持ちが伝わってくる温かな取組となっています。自分自身が家庭学習の時間を設定し、まずはその時間に取り組む、達成感を持たせ自信をつけながら、徐々に家庭学習の力を伸ばしていけるような声かけもしていきたいです。

- ・ 新型コロナウイルス感染症のために、これまで小学校と保育園の交流の場が失われてきた。コロナの状況をみながら保育園としても成長段階に合わせ、「伝える力」や「聴く力」についてできることを取り組んで行きたい。
- ・ 先生方の働き方改革について評価が低い。業務改善に向けて地域人材を利用しては……  
————— コロナの関係でなかなか外部講師など、地域の方々にお願いしにくい状況が続いてきた。感染状況をみながら、また地域の方々に講師等でお力を貸していただきたいと考えています。

\*\*\*\*\*  
学校関係者評価委員会のみなさん  
いつもありがとうございます！  
\*\*\*\*\*  
学 校 評 議 員 今 村 恵 子 様  
学 校 評 議 員 木 村 牧 子 様  
学 校 評 議 員 山 本 洋 平 様  
育 成 会 会 長 二 木 崇 維 様  
蝶屋子ども園長 吉 川 優 子 様  
\*\*\*\*\*